

## 国際協力のため

富山県立高岡高等学校 一年 松田 眸

世界平和について考えるとき、私は友達のことを思いだします。私には、スリランカ人の友達がいいます。名前はアローシャ。彼女との出会いは小六の夏休みに十日間のキャンプに参加したことがきっかけです。キャンプでも親しくなっていた私は、キャンプが終わってからでも文通や電話などをして連絡を取り合っていました。彼女から聞くスリランカは、とても素敵な国でした。いつか行ってみたい、そう思う気持ちもだんだんと強くなっていきました。ある日のこと、アローシャと電話をしていた私は、とても驚くことを聞きました。それは、スリランカ

が内戦で苦しんでいるということ。内戦があることは、少しは知っていました。それまであまり話すことがありませんでした。アロージャから聞く話はどれも心が痛むことばかりで、何と答えればよいか分かりませんでした。私たちと歳の変わらない子供たちが兵士として内戦にいつているということ。多くの人が犠牲になつていてということ。そのような現状であるということ。私を私は全く理解していませんでした。私は、このことを聞いて大変ショックを受けました。どうしたら、内戦がなくなるのか、どうして子供達までもが巻き込まれるのか。いろいろな考えや思いが浮かびました。自分に何ができるか：私一人の力では何もすることが出来ませんでした。

しかし、今の時代、国際協力という言葉は身近なものになりつつあり、募金や支援活動など様々な形で遠く離れた国の手助けができるようになりました。私のような、ただの高校生でも少しはどこかの国がよりよくなるお手伝いができる、そんな時代になつていてと思います。だけど、何も考えずただ、募金や支援活動をすることは、本当の国際協力といえるのでしょうか？それは自己満足な国際協力である気がします。今、世界でどんなことが起きているのか、そのことをよく理解し、行動することが一番大切なのではないでしょうか。もちろん、内戦など

の悲しい部分だけでなく、他の国の良いところもたくさん知ること、大事だと思えます。

本当の国際協力のため、そして地球に暮らす一員として、様々な国に目を向けていきたいです。

